

大腸内視鏡検査のながれ

① 前日の下剤

1. 前日の夜に下剤を服用していただきます。
2. 服用のしかたや前日の食事などについては、検査を予約した際にスタッフからくわしい説明があります。

② 問診と当日の下剤

1. 検査当日、受診科のスタッフより内視鏡室へ案内されます。
2. 当日の下剤を病院（内視鏡室）で服用される方は、午前9時までに内視鏡室に到着できるようお越しください。
3. 自宅で服用された方は午前11時までにお越しください。
4. 問診で、心臓の病気の有無、緑内障の有無、前立腺肥大の有無、乳がん手術の有無、抗血栓薬や抗凝固薬（血液をサラサラにする薬）服用の有無などについて確認させていただきます。ふだん飲んでいるお薬がある方は、お薬手帳を必ずお持ちください。
5. 当日の下剤は、便の状態をみながら1000mLないし2000mL服用していただきます。飲み方についてはスタッフより説明があります。当日は水かお茶500mLを持参してください。
6. 服用中に腹痛が出現したり、気分が悪くなったりした方は、看護師にお申し出ください。
7. 検査開始までなんとかお名前を確認させていただきますが、患者さんの取り違えを避けるためです。なにとぞご理解ください。

③ 検査開始

1. 順番が来たら検査室に案内します。大腸内視鏡は原則として午後から開始します。排便状況や検査の順番によっては開始時間が夕方近くなることもあります。
2. 検査用のズボンにはき替えていただきます。ズボンは穴のある方がうしろ（おしり側）です。
3. ベッドに横になっていただき、肩に腸の動きをおさえるお薬を注射します（注射はしないこともあります）。
4. 左を下にして横向きになります。
5. 検査医がおしりに潤滑剤のゼリーを塗り、内視鏡を入れます。
6. まずは一番奥の盲腸まで進めます。
7. 検査中はなるべくおなかの力を抜いておきましょう。おなかに力が入ると内視鏡が入りにくくなります。曲がりの多いS状結腸を通るときに痛みを感じることもが

あります。とくにおなかの手術を受けたことのある方は癒着の影響で痛みが出やすい場合があります。もし痛みを感じてもため息をつくようにゆっくりと呼吸し、おなかに力を入れないようにしましょう。内視鏡が盲腸まで到達したら、くわしく観察しながら抜いていきます。

8. 検査時間はおおむね 30 分程度です。腸の長さや走行、検査での異常の有無などによって、時間が少し長くなることもあります。

④ 検査終了

1. ベッドが下がりますので、看護師から声がかかるまで横になったままお待ちください。
2. 検査用ズボンのはき替えが終わったら、ファイルをお渡ししますので、それを持って受診科へ行ってください。

【鎮静剤（眠くなるお薬）を希望された方】

1. 検査が始まる少し前に処置室で腕に点滴をします。
2. 貴重品は内視鏡室のロッカーへお預けください。
3. 検査開始直前に点滴の管から鎮静剤を入れます。
4. 検査のあいだは、ひとによっては完全に眠ってしまうこともあります。意識はなくならずぼんやりする程度のこともあります。
5. 検査後は処置室で休んでいただきます。1 時間たったらお声をかけますので、そのあと受診科へ行っていただきます。眠気が強いときは安静時間を延長することがあります。
6. 当日はクルマやバイクの運転をお控えいただきますので、ご了承ください。
7. なお、鎮静剤使用後に休むベッドの数には限りがあります。したがって検査当日になって急に使用するのはむずかしく、希望される場合は前もって予約が必要となります。事前に主治医の先生にお申し出ください。

以上です。検査おつかれさまでした。

